ダイワ新興国ソブリン債券ファンド (資産成長コース/通貨αコース)

<5620> <5621>

(資産成長コース) 追加型投信/海外/債券 (通貨αコース) 追加型投信/海外/債券

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げ ます。

「資産成長コース」は、新興国の現地通貨建債券 に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収 益の確保をめざし、[通貨 α コース] は、新興国の 現地通貨建債券への分散投資とオプション取引を組 み合わせた通貨カバードコール戦略を構築し、オプ ションプレミアムの獲得ならびに信託財産の着実な 成長と安定した収益の確保をめざしており、信託期 間中につきましてもそれに沿った運用を行ないまし た。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知ら せいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い 申し上げます。

(資産成長コース)

満期償還 2024年1月17日償還

(通貨αコース)

第114期 2023年8月17日決算 第117期 2023年11月17日決算 第115期 2023年9月19日決算 第118期 2023年12月18日決算

第116期 2023年10月17日決算 満期償還 2024年1月17日償還

(資産成長コース)

僧還時	基準価額	10,227円72銭
順 速时	純資産総額	109百万円
償還期	騰落率	△3. 0%

(诵貨αコース)

僧谖時	基準価額	2,740円83銭
順 基时	純資産総額	414百万円
练11 <i>1</i> 批。/学》	騰落率	△4. 3%
第114期~償還期 	分配金合計	150円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなし て計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 https://www.daiwa-am.co.jp/

運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ) 0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、 お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する ことを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方 からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォント **FONT** を採用しています。

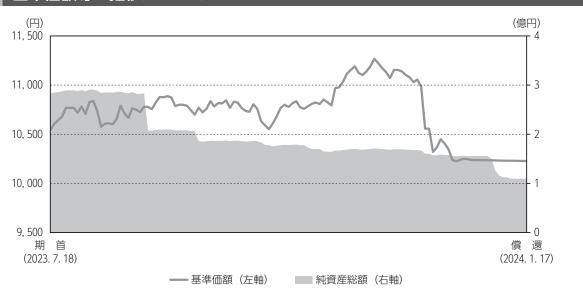
♦SKU0562020240117

資産成長コース



運用経過

基準価額等の推移について



■基準価額・騰落率

期 首:10,541円

償還時: 10, 227円72銭

騰落率:△3.0%

■基準価額の主な変動要因

投資している債券の利息収入や複数の投資対象通貨が対円で上昇(円安)したことがプラス要因となりましたが、債券の価格下落がマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

1万口当りの費用の明細

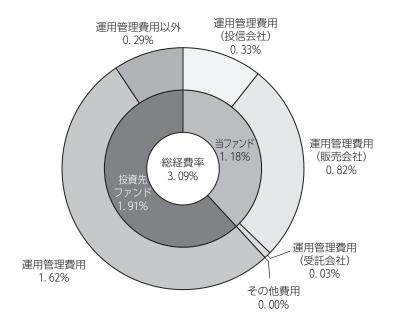
項目	当 (2023. 7. 19~	期 ~2024. 1. 17)	項 目 の 概 要					
	金額	比率						
信託報酬	63円	0. 591%	信託報酬=当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10,719円です。					
(投信会社)	(18)	(0. 165)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価					
(販売会社)	(44)	(0. 412)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの 管理、購入後の情報提供等の対価					
(受託会社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価					
売買委託手数料	_	_	売買委託手数料=当作成期中の売買委託手数料/当作成期中の平均受益 権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料					
有価証券取引税	_	_	有価証券取引税=当作成期中の有価証券取引税/当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金					
その他費用	_	_	その他費用=当作成期中のその他費用/当作成期中の平均受益権口数					
合 計	63	0. 591						

- (注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便 法により算出した結果です。
- (注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
- (注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報·

■総経費率

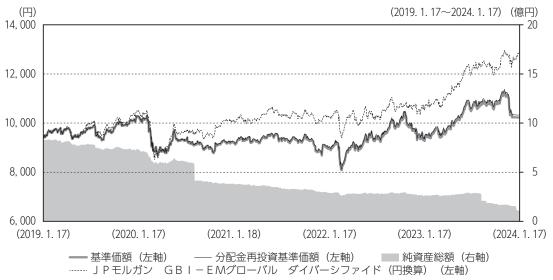
当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当り)を乗じた数で除した総経費率(年率)は3.09%です。



総経費率 (① + ② + ③)	3. 09%		
①当ファンドの費用の比率	1. 18%		
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1. 62%		
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0. 29%		

- (注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。
- (注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
- (注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
- (注4) 各比率は、年率換算した値です。
- (注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- (注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
- (注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- (注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2019年1月17日の基準価額をもとに指数化したものです。
- *分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- *分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります(分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- *参考指数は J P モルガン G B I E Mグローバル ダイバーシファイド (円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

		2019年 1 月17日 期初	2020年 1 月17日 決算日	2021年 1 月18日 決算日	2022年 1 月17日 決算日	2023年 1 月17日 決算日	2024年 1 月17日 償還時
基準価額	(円)	9, 421	10, 276	9, 208	8, 946	9, 298	10, 227. 72
期間分配金合計(税込み)	(円)	_	20	20	20	20	10
分配金再投資基準価額の 騰落率	(%)		9. 3	△10. 2	△2. 6	4. 2	10. 1
JPモルガン GBI-EMグローバル ダイバーシファイド (円換算) 騰落率	(%)	_	11. 7	△4. 1	1. 7	3. 1	22. 0
純資産総額	(百万円)	824	733	382	290	258	109

- (注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。
- (注 2) JPモルガン GBII-EMグローバル ダイバーシファイド (円換算) は、JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに、大和アセットマネジメントが円換算したものです。JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド (米ドルベース) は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、JP. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。JP. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J. P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.
- (注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

設定以来の投資環境について

 $(2014. 1. 24 \sim 2024. 1. 17)$

■新興国債券市況

<u>新興国債券市場は、個別国要因などにより、金利は国によってまちまちな動きとなりました。</u>

新興国債券市場は、当ファンド設定日から2014年末にかけて、先進国の金融緩和の長期化観測や、原油価格の下落によるインフレ圧力の低下などを受け、多くの国で金利は低下(債券価格は上昇)しました。2015年は、米国の金融引き締めに対する思惑といった外部要因に加えて、各国の政治・財政状況の影響を受け、多くの国で金利は上昇(債券価格は下落)しました。2016年から2020年末にかけては、世界的な低金利・低インフレ環境に加え、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした各国の金融緩和などにより、多くの国で金利は低下しました。2021年以降は、原油価格の上昇や供給制約などから世界的にインフレ圧力が高まり、各国で利上げが実施されたことなどから、多くの国で金利は上昇しました。

■為替相場

新興国通貨の対円為替相場は、個別国要因などにより対円でまちまちな動きとなりました。

対円為替相場は、当ファンド設定日から2014年末にかけて、日銀の追加金融緩和などを背景に円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨が上昇しました。2015年から2016年半ばにかけては、中国の景気減速懸念が高まったことや英国のEU(欧州連合)離脱などから、市場のリスク回避姿勢が強まり、円高が進行したことから、多くの新興国通貨が対円で下落しました。2016年後半から2017年末にかけては、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利し、同氏の経済政策への期待感から市場のリスク選好度が強まったことに加え、世界的に景気が安定して推移したことなどから、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。2018年から2020年末にかけては、米中貿易摩擦への懸念が高まったことや新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、多くの新興国通貨が対円で下落しました。2021年以降は、世界的に利上げが実施される中で、日本との金利差が拡大し、円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。

信託期間中の運用方針

■当ファンド

主として、「エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)」の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

※エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス): クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) Ⅲ - ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド(資産成長クラス)

■エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利変動リスクを表す修正デュレーションは1(年)程度~3(年)程度でコントロールします。

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

信託期間中のポートフォリオについて

 $(2014. 1. 24 \sim 2024. 1. 17)$

■当ファンド

当ファンドは、「エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)」と「ダイワ・マネー・マザーファンド」の受益証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。

当ファンド設定時より、「エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)」の受益証券を 高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

■エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)

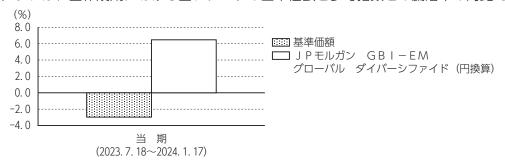
・通貨配分に関しては、基本的な商品性格に基づき、各地域均等、各地域内の投資通貨においても 均等となることをめざしました。設定時より、欧州・中東・アフリカ地域においては、ロシア・ ルーブル、ポーランド・ズロチ、南アフリカ・ランド、トルコ・リラ、アジア地域ではインドネ シア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピー、マレーシア・リンギット、タイ・バーツ、 中南米地域ではブラジル・レアル、メキシコ・ペソ、ペルー・ソルを投資対象とし、投資環境に 応じて投資を行いました。 ・債券ポートフォリオの金利変動リスクについては、修正デュレーションで1(年)程度~3 (年)程度でコントロールしました。また、組入債券の種別構成については、主に現地通貨建国 債からなるポートフォリオ構成としました。

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債および現先取引、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。 以下のグラフは、当作成期における当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

1万口当り、第1期~第19期各10円の収益分配を行いました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

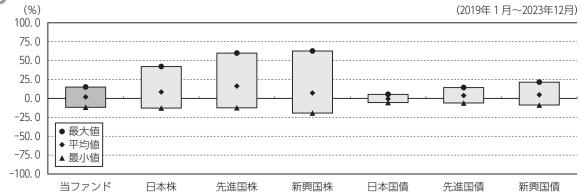


| 当ファンドの概要

商	品	分	類	追加型投信/海外/	自加型投信/海外/債券						
信	託	期	間	014年 1 月24日~2024年 1 月17日							
運	用	方	針	信託財産の着実な成	長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。						
主	主要投資対象		象	当ファンド	イ.ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド(資産成長クラス)」(以下「エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)」といいます。)の受益証券(円建) □.ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券						
				ダイワ・マネー・ マザーファンド	本邦通貨表示の公社債						
		ンド 方		し、信託財産の着実 ②当ファンドは、エ ド・オブ・ファンズ ることを基本としま	ジング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券に分散投資 な成長と安定した収益の確保をめざします。 マージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンです。通常の状態で、エマージング・ボンド・ファンド(資産成長クラス)への投資割合を高位に維持すす。 ンド・ファンド(資産成長クラス)では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行な						
マザーファンドの 運 用 方 法				①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 ②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位(A – 2 格相当)以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の 短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。							
分	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、信託財産の成長に資す分配方針を目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合分配を行なわないことがあります。										



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最 大 値	15. 0	42. 1	59. 8	62. 7	5. 4	14. 3	21.5
平 均 値	1. 9	8. 4	16. 2	7. 2	△ 0.7	3. 6	4.8
最 小 値	△ 11.7	△ 12.8	△ 12. 4	△ 19. 4	△ 5. 5	△ 6.1	△ 8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

- ※ファンドの年間騰落率は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて 計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。
 - ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
 - ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
 - ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。
- ※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……配当込みTOPIX

先進国株……MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株………MSC | エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド(円ベース) ※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIには、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmanket/notice.html] ●MOMURA —BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社とに算出されます。NOMURA —BPI国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリカのプフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA —BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの連用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケッツ グローバル ダイパーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016、J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved. (注)海外の指数は、為替へッジなしによる投資を規定して、円検算しております。



当ファンドの組入資産の内容

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

純資産等

項 目	償 還 時
以 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	2024年 1 月17日
純資産総額	109, 381, 137円
受益権総□数	106, 945, 740
1万口当り基準価額	10, 227円72銭

^{*}当期中における追加設定元本額は211,170円、同解約元本額は161,742,115円です。

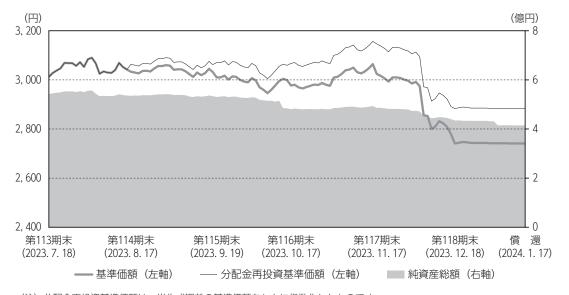
^{*}組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

通貨αコース



運用経過

基準価額等の推移について



- (注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。
- *分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- *分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります(分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

第114期首:3,012円

償 還 時:2,740円83銭 (既払分配金150円) 騰 落 率:△4.3% (分配金再投資ベース)

■基準価額の主な変動要因

投資している債券の利息収入や通貨オプション取引によるプレミアム収入がプラス要因となりましたが、債券の価格下落がマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

1万口当りの費用の明細

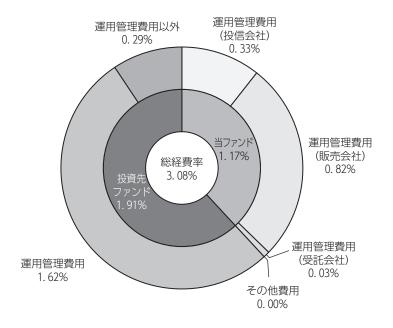
項目	- 1- 110	~ 償還期 ~2024. 1. 17)	項 目 の 概 要					
	金額	比率						
信託報酬	17円	0. 589%	信託報酬=当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は2,957円です 。					
(投信会社)	(5)	(0. 164)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価					
(販売会社)	(12)	(0. 412)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの 管理、購入後の情報提供等の対価					
(受託会社)	(0)	(0. 013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価					
売買委託手数料	6	0. 217	売買委託手数料=当作成期中の売買委託手数料/当作成期中の平均受益 権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料					
(投資信託受益証券)	(6)	(0. 217)						
有価証券取引税		_	有価証券取引税=当作成期中の有価証券取引税/当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金					
その他費用	_	_	その他費用=当作成期中のその他費用/当作成期中の平均受益権口数					
合 計	24	0. 806						

- (注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権□数に変動があるため、項目の概要の簡便 法により算出した結果です。
- (注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
- (注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報·

■総経費率

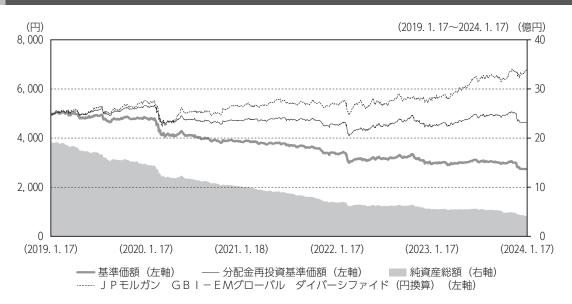
当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当り)を乗じた数で除した総経費率(年率)は3.08%です。



総経費率 (① + ② + ③)	3. 08%		
①当ファンドの費用の比率	1. 17%		
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1. 62%		
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0. 29%		

- (注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。
- (注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
- (注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。
- (注4) 各比率は、年率換算した値です。
- (注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- (注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。
- (注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- (注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について



- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2019年1月17日の基準価額をもとに指数化したものです。
- *参考指数は J P モルガン G B I E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

		2019年 1 月17日 期初	2020年 1 月17日 決算日	2021年 1 月18日 決算日	2022年 1 月17日 決算日	2023年 1 月17日 決算日	2024年 1 月17日 償還時
基準価額	(円)	4, 952	4, 819	3, 847	3, 349	2, 940	2, 740. 83
期間分配金合計(税込み)	(円)	_	480	430	360	360	330
分配金再投資基準価額の 騰落率	(%)	_	7. 4	△11.3	△4. 0	△1.6	4. 1
J P モルガン G B I – E Mグローバル ダイバーシファイド(円換算)騰落率	(%)	_	11. 7	△4. 1	1.7	3. 1	22. 0
純資産総額	(百万円)	1, 898	1, 467	1, 009	685	550	414

- (注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。
- (注2)JPモルガン GBI-EMグローバル ダイバーシファイド(円換算)は、JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド(米ドルベース)をもとに、大和アセットマネジメントが円換算したものです。JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド(米ドルベース)は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.
- (注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

設定以来の投資環境について

 $(2014. 1. 24 \sim 2024. 1. 17)$

■新興国債券市況

<u>新興国債券市場は、個別国要因などにより、金利は国によってまちまちな動きとなりました。</u>

新興国債券市場は、当ファンド設定日から2014年末にかけて、先進国の金融緩和の長期化観測や、原油価格の下落によるインフレ圧力の低下などを受け、多くの国で金利は低下(債券価格は上昇)しました。2015年は、米国の金融引き締めに対する思惑といった外部要因に加えて、各国の政治・財政状況の影響を受け、多くの国で金利は上昇(債券価格は下落)しました。2016年から2020年末にかけては、世界的な低金利・低インフレ環境に加え、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした各国の金融緩和などにより、多くの国で金利は低下しました。2021年以降は、原油価格の上昇や供給制約などから世界的にインフレ圧力が高まり、各国で利上げが実施されたことなどから、多くの国で金利は上昇しました。

■為替相場

新興国通貨の対円為替相場は、個別国要因などにより対円でまちまちな動きとなりました。

対円為替相場は、当ファンド設定日から2014年末にかけて、日銀の追加金融緩和などを背景に円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨が上昇しました。2015年から2016年半ばにかけては、中国の景気減速懸念が高まったことや英国のEU(欧州連合)離脱などから、市場のリスク回避姿勢が強まり、円高が進行したことから、多くの新興国通貨が対円で下落しました。2016年後半から2017年末にかけては、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利し、同氏の経済政策への期待感から市場のリスク選好度が強まったことに加え、世界的に景気が安定して推移したことなどから、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。2018年から2020年末にかけては、米中貿易摩擦への懸念が高まったことや新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、市場のリスク回避姿勢が強まったことなどから、多くの新興国通貨が対円で下落しました。2021年以降は、世界的に利上げが実施される中で、日本との金利差が拡大し、円安が進行したことなどから、多くの新興国通貨が対円で上昇しました。

■為替ボラティリティ相場

新興国為替ボラティリティは、個別国要因などにより、国によってまちまちな動きとなりました。 新興国通貨の対円ボラティリティは、当ファンド設定から2016年半ばにかけて、中国の景気減速 懸念や原油価格の下落などから市場の警戒感が高まり、おおむね上昇しました。2016年後半から 2019年末にかけては、各国の個別要因によりボラティリティが一時上昇する場面もありましたが、 世界的に景気が安定して推移したことなどから、おおむね低下しました。2020年前半は、新型コロ ナウイルスの感染拡大を背景に市場の警戒感が急速に高まりボラティリティは大きく上昇しましたが、その後は、各国政府・中央銀行による大規模な景気刺激策や金融緩和を受けて市場は落ち着きを取り戻し、低下しました。2021年半ばから2022年にかけては、ウクライナ情勢への懸念が高まったことや円安が加速したことなどから市場の警戒感が高まり、ボラティリティはおおむね上昇しましたが、2023年以降は、円安に対する市場の警戒感が後退したことなどから、おおむね低下しました。

信託期間中の運用方針

■当ファンド

主として、「エマージング・ボンド・ファンド(通貨 α クラス)」の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券への分散投資と通貨のオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得ならびに信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

※エマージング・ボンド・ファンド(通貨 α クラス):クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) Π - ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド(通貨 α クラス)

■エマージング・ボンド・ファンド(通貨αクラス)

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利変動リスクを表す修正デュレーションは1(年)程度~3(年)程度でコントロールします。通貨カバードコール戦略(※)を構築し、オプションプレミアム(オプションの買い手が売り手に支払う対価)の獲得をめざします。

※新興国通貨それぞれについて、円に対する当該新興国通貨のコール・オプション(買う権利) を売却し、オプションのプレミアム収入の獲得をめざす戦略

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

信託期間中のポートフォリオについて

 $(2014. 1. 24 \sim 2024. 1. 17)$

■当ファンド

当ファンドは、「エマージング・ボンド・ファンド(通貨αクラス)」と「ダイワ・マネー・マ ザーファンド」の受益証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。

当ファンド設定時より、「エマージング・ボンド・ファンド(通貨αクラス)」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

■エマージング・ボンド・ファンド(通貨αクラス)

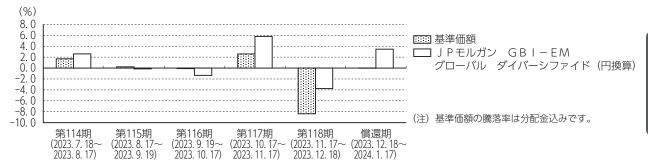
- ・通貨配分に関しては、基本的な商品性格に基づき、各地域均等、各地域内の投資通貨においても 均等となることをめざしました。設定時より、欧州・中東・アフリカ地域においては、ロシア・ ルーブル、ポーランド・ズロチ、南アフリカ・ランド、トルコ・リラ、アジア地域ではインドネ シア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピー、マレーシア・リンギット、タイ・バーツ、 中南米地域ではブラジル・レアル、メキシコ・ペソ、ペルー・ソルを投資対象とし、投資環境に 応じて投資を行いました。
- ・債券ポートフォリオの金利変動リスクについては、修正デュレーションで1 (年) 程度~3 (年) 程度でコントロールしました。また、組入債券の種別構成については、主に現地通貨建国債からなるポートフォリオ構成としました。
- ・通貨力バードコール戦略を構築し、オプションプレミアム(オプションの買い手が売り手に支払う対価)の獲得をめざしました。ただし、2022年3月以降、ロシア・ルーブルについては流動性の著しい低下からオプション取引を行うことが困難であったため、通貨力バードコール戦略の構築は行いませんでした。

■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債および現先取引、コール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。 以下のグラフは、当作成期における当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

1万口当り、第1期~第19期各100円、第20期~第48期各80円、第49期~第56期各55円、第57期~ 第78期各40円、第79期~第118期各30円の収益分配を行いました。

また、第114期〜第118期の収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」 をご参照ください。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたしました。

■分配原資の内訳(1万口当り)

				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
	項目		第114期		第115期	第116期	第117期	第118期	
			2023年7月19日	2023年8月18日	2023年9月20日	2023年10月18日	2023年11月18日		
				~2023年8月17日	~2023年9月19日	~2023年10月17日	~2023年11月17日	~2023年12月18日	
\[\sigma_1	/#n/\=>^	(#¥\7 7.\	/m\	20	20	20	20	20	
=	期分配金	(祝込み)	(円)	30	30	30	30	30	
	対基準値	西額比率	(%)	0. 98	0.99	1.00	0. 98	1. 08	
	当期の」	収益	(円)	30	30	25	30	29	
	当期のリ	収益以外	(円)	_	_	4	_	0	
翌	別繰越分配	己対象額	(円)	302	303	299	300	299	

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはございません。

■収益分配金の計算過程(1万口当り)

項			第114期	ģ	第115期	ģ	第116期	9	第117期	É	育118期
(a) 経費控除後	後の配当等収益	/	30.52円	/	30.97円	✓	25.42円	✓	31.05円	/	29. 26円
(b) 経費控除後の	有価証券売買等損益		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00
(c) 収益調整	金		53. 98		55. 02		55. 99		56. 91		57. 82
(d) 分配準備	積立金		248. 34		247. 84	✓	247. 83		242. 34	✓	242. 49
(e) 当期分配対象額	類 (a+b+c+d)		332. 85		333. 83		329. 25		330. 31		329. 58
(f)分配金			30.00		30.00		30.00		30.00		30.00
(g) 翌期繰越分配	≳対象額(e−f)		302. 85		303. 83		299. 25		300. 31		299. 58

⁽注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

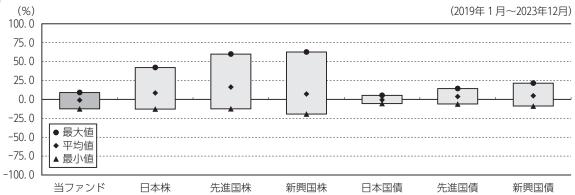


| 当ファンドの概要

商	品	分	類	追加型投信/海外/債券								
信	託	期	間	2014年 1 月24日~2024年 1 月17日								
運	用	方	針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。								
主	主要投資対象		象	 イ.ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド(通貨αクラス)」(以下「エマージング・ボンド・ファンド(通貨αクラス)」といいます。)の受益証券(円建) ロ.ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券 								
			ダイワ・マネー・ マザーファンド 本邦通貨表示の公社債									
	①主として、エマージング・ボンド・ファンド(通貨 αクラス)の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券への分散と通貨のオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得ならびに信託財産のな成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、エマージング・ボンド・ファンド(通貨 αクラス)とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するフド・オブ・ファンズです。通常の状態で、エマージング・ボンド・ファンド(通貨 αクラス)への投資割合を高位に維持ことを基本とします。 ③エマージング・ボンド・ファンド(通貨 αクラス)では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ません。											
		ファン 用 方		①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 ②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位(A – 2 格相当)以上の短期格付であり、かつ残存期間が 1 年未満の 短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。								
分	配	方	針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを 目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことが あります。								



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最 大 値	9. 1	42. 1	59. 8	62. 7	5. 4	14. 3	21.5
平 均 値	△ 1.0	8. 4	16. 2	7. 2	△ 0.7	3. 6	4. 8
最 小 値	△ 12.5	△ 12.8	△ 12. 4	△ 19.4	△ 5. 5	△ 6.1	△ 8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

- ※ファンドの年間騰落率は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて 計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。
 - ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
 - ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
 - ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。
- ※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……配当込みTOPIX

先進国株……MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株………MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケッツ グローバル ダイバーシファイド(円ベース) ※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIには、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。[https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmanket/notice.html] ●MOMURA —BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社とに算出されます。NOMURA —BPI国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリカのプフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA —BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの連用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケッツ グローバル ダイパーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016、J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved. (注)海外の指数は、為替へッジなしによる投資を規定して、円検算しております。



_____ 当ファンドの組入資産の内容

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

純資産等

項目	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	償還時
以 日	2023年8月17日	2023年9月19日	2023年10月17日	2023年11月17日	2023年12月18日	2024年1月17日
純資産総額	534, 895, 234円	530, 036, 631円	480, 548, 575円	485, 979, 841円	434, 224, 035円	414, 921, 581円
受益権総口数	1, 763, 304, 603	1, 760, 803, 647	1, 614, 466, 592	1, 606, 860, 367	1, 584, 194, 675	1, 513, 856, 125
1万口当り基準価額	3, 033円	3, 010円	2, 977円	3, 024円	2, 741円	2,740円83銭

^{*}当作成期間 (第114期~償還期) 中における追加設定元本額は40,183,375円、同解約元本額は324,381,067円です。

^{*}組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。